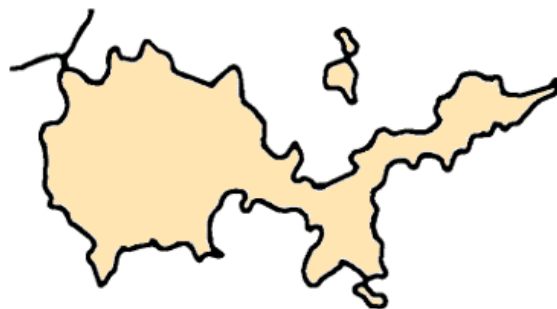


山口県周防大島町 体験型教育旅行資料

SUO - OSHIMA

感動☆島体験

海と山 自然がいっぱいの島は
笑顔がいっぱい 感動がいっぱい



周防大島町体験交流型観光推進協議会

〒742-2301

山口県大島郡周防大島町大字久賀5134（役場商工観光課内）

- TEL 0820-79-1003 • FAX 0820-79-1021
- MAIL taikenkoryu@town.suo-oshima.lg.jp



周防大島町

山口県の東南部に浮かぶ瀬戸内海で3番目に大きな島。
大島大橋で本土と繋がっており、広島市内や宮島とのアクセスも良好。温暖な気候と豊かな自然に恵まれた人情あふれる町です。



主な産業

- 農業
- 漁業
- 観光業



柑橘類の栽培

みかんの生産量は
山口県全体の8割超



豊かな漁場

一本釣り・イワシ網漁・
タコ漁など沿岸漁業が盛ん



瀬戸内のハワイ

ハワイ州カウアイ島の姉妹島
ヤシの木が立ち並び美しい
海岸線は南国ムードたっぷり

町の特徴

- 半農半漁の家庭が多い
- 生涯現役！お年寄りが多い
- 人情深く 温かい人間関係



2008年(平成20年)6月設立

周防大島町体験交流型観光推進協議会

2008年に民泊の受入をスタートし、受入実績は3万人以上。
海や山の自然を活かした豊富な体験プログラムと、のどかな島
での心温まる「交流」が魅力。

受入規模

- 民泊体験 100名
- 日帰り体験 19種



海！山！自然を活かした体験が充実



安心・安全な受入体制

子供達への指導方法や安全
対策等の研修会を毎年開催

構成

個人会員

- ・体験インストラクター
- ・民泊受入家庭

団体会員

- ・周防大島町 町議会
- ・観光協会 商工会
- ・自治会連合会
- ・山口県農業協同組合周防大島統括本部
- ・大島郡水産共励会
- ・各観光事業者 etc

受入実績

累計
3万人以上

◆ 近年の受入

2016年	26校	3,728人
2017年	30校	4,114人
2018年	23校	2,704人
2019年	29校	3,297人
2024年	7校	368人
累計	252校	32,691人

◆ 今年・今後の計画

2025年	10校	626人
2026年	14校	933人

周防大島町 民泊地図



民泊体験

家族の一員としてお迎えします

海・山の自然と共に生きる島で、家族の一員となって様々なことに挑戦！自然の恵みに触れ、命の尊さを知り、自立心や挑戦心を培いながら、子供たちの「生きる力」を育みます。

1. 入村式

ドキドキの初対面



2. 家業生活体験

家庭ごと・季節ごとに様々な暮らしがあります



カゴ網漁



みかん収穫



さつまいもの苗付け

3. 共同調理&家族団らん



4. 離村式

すっかり仲良くなった島の家族との
お別れでは思わず涙がこぼれます



生徒さんの声

- ひとつひとつが初めての体験でめちゃめちゃ楽しかった！
- 魚や野菜が食べられるようになった
- 大人と話すのが好きになった
- 何か手伝えることはないかと周りを見れるようになった

おすすめの選択別体験

カヌー体験



- 実施時期
5～10月
- 受付人数
15～40人
- 所要時間
3時間程度

波や風を肌で感じながら1km沖合に浮かぶ無人島への航海にチャレンジ！2人乗りのカヌーはパディ（相棒）と息を合わせることがポイント。目標到達を目指し諦めない心と協調性を養います。

周防大島 塩作り復活体験

- 実施時期
通年（屋内）
- 受付人数
15～30人
- 所要時間
2時間程度



一度は途絶えた周防大島での塩作り。その歴史を紐解き、復活への想いを知り、実際に海水からの塩作りに挑戦します。塩と海水を分離させる作業はとても根気がいりますが、仲間と協力して取り組んでみましょう。

みかん収穫体験



- 実施時期
10～12月
- 受付人数
10～30人
- 所要時間
2時間程度

「みかんの島」で農業の専門家から栽培の工夫や美味しい果実の見分け方を教わった後、みかん畑での収穫作業を体験します。採れたてのみずみずしい果実の食べ比べをお楽しみください。

竹のぽんぷら飯づくり

- 実施時期
4～6月
9～3月
- 受付人数
10～20人
- 所要時間
2～3時間程度



竹を使ってお箸や飯盒（はんごう）を作り、野外でご飯を炊くアウトドア体験です。自分たちの力で火起こしにも挑戦！自然の素材がアイデア次第でいろいろな物に生まれ変わることを体感してみましょう。

周防大島町の魅力と課題 S D G s 探究学習テーマ

新学習指導要領の改訂で従来からの「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点から特別教育活動、とりわけ修学旅行等でその実現に向けての期待が高まります。主体的に事前・事後学習を行うことに加え、現場での対話的な体験学習により狙いの深い学びとなります。旅行先での学習のテーマは地域事情に合致したものでなくてはなりません。地域の魅力と課題を示すことにより主体的なテーマの選択が可能となります。

魅 力

瀬戸内のハワイ

1. 海も！山も！豊かな自然

ヤシの木が映えるエメラルドグリーンの美しい海と、緑豊かな600m級の山々。別名「瀬戸内のハワイ」と呼ばれ、海や山の自然体験が充実しています。週末には多くの観光客が訪れる県内屈指の観光地です。

2. 農業・漁業 活気ある一次産業

温暖な気候を活かし柑橘栽培が盛んで、なかでも「みかん」は山口県全体の8割以上の生産量を誇ります。また、タイ・ハマチ・イワシなどの沿岸漁業が盛んで、釣り人のメッカとしても知られています。

3. 温かい地域の輪、移住先にも人気

島での暮らしは不便なこともあります。助け合いや思いやりといった共助の意識が強く、温かさ・優しさにあふれています。近年移住や起業による新たな交流も増えており、地域に賑わいが生まれています。

課 題

1. 海の汚染・山の荒廃

浜に打ち寄せる漂着ごみや、海中を漂う漂流ごみ。環境破壊や漁具の破損など、海と共に生きる島でその被害は甚大です。また、高齢化で山の手入れをする人が減り、荒廃・竹害・獣害も発生しています。

高齢化率55%超え！全国トップクラスの超高齢社会が招く

2. 深刻な後継者不足

一次産業就業者の平均年齢は、農業71.5歳、漁業56.9歳。主要産業でありながら、その高齢化と後継者不足は深刻です。担い手不足で生産力が低下し、耕作放棄地の増加や漁村地域の衰退を招いています。

3. 人口減少による活力低下

40年後には人口が約1/4に減少するといわれる周防大島町。企業の撤退や商店の閉店、学校の統廃合などは若者の転出に拍車をかけ、地域活動の担い手不足によるコミュニティ機能の崩壊が懸念されています。



ミツバチが担う役割を知り、環境保護の大切さを学ぶ

プログラムの概要

600m級の山々が連なる緑豊かな周防大島町。温暖な気候に恵まれ、四季を通して様々な植物が花開きます。「みかんの島」と呼ばれるほど柑橘栽培が盛んであり、初夏のみかん畑では可愛らしい白い花が咲き始めます。

作物の実りに受粉の役割を担うミツバチの存在は欠かせません。世界の食糧の9割を占める主要な100の作物種のうち、実に7割はハチが受粉を媒介していると言われています。ミツバチは地球上のあらゆる生き物にとって無くてはならない大切な存在なのです。しかし、昨今ミツバチが姿を消し始めているのをご存知ですか？その原因はいったい何なのか…？

当プログラムでは、ミツバチの暮らしを守る島の養蜂家の取組みを体験し、環境保護の大切さを感じていただくとともに、地球規模の様々な問題の解決策を共に考えます。



伝えたいこと

- ◆ ミツバチの役割と人々の関係
- ◆ ミツバチ減少の背景とその問題点
- ◆ 環境保護と農業の持続可能性
- ◆ 食品ロス・ゴミ問題
- ◆ 世界の貧困問題・労働格差
- ◆ 企業連携・地域づくり



教育効果

- ◆ 課題を提起・調査・考察し、解決策を導き出す力を養う。
- ◆ 様々な視点や立場で考え、物事を多面的に捉える力を身につける。
- ◆ グループワークを通して主体性と協調性を磨く。
- ◆ 環境保護の大切さを学び、未来に繋がる取組みについて考える。
- ◆ 地球規模の問題を自分事に落とし込み、日常の中で自分自身に出来ることを考える。
- ◆ 体験活動をきっかけに、地域や社会に貢献する意識を醸成する。

プログラムの流れ

①事前学習 (学校)	周防大島町の特徴・SDGsの目標について学ぶ(資料提供)
②現地説明	体験内容の説明
③調査・体験	養蜂家KASAHARA HONEYさんの施設で、自然を活かした体験活動に取り組む。
④まとめの会	グループワーク・発表
⑤事後学習・ 発表(学校)	学習成果の発表

- ◆ 人数 10~40名
- ◆ 所要時間 3時間程度
- ◆ 実施期間 通年
- ◆ 持参物
汚れてもいい服・靴・帽子・軍手・タオル



海ごみゼロプロジェクト ～海洋ごみから学ぶ海のこと・人々のこと～

プログラムの概要

国内最大級のニホンアワサンゴの群生地を持つ周防大島町。その美しい海は人々を魅了し、観光業は島の主要産業の1つになっています。また、周囲の海は多様な魚が生息する好漁場であり、水産業は島の経済や雇用を支えています。

豊かな潮流や長く続く砂浜は、島に恵みをもたらす一方で、沢山の海洋ごみが漂着する要因にもなっています。ごみは景観だけでなく生き物の住処を破壊しており、海と共に生きる島でその影響は深刻です。特に、世界中で問題視されているプラスチックごみが、実際にどのような問題を引き起こしているのか…？「海ごみゼロ」を目指す島で、見て・触れてこそ感じられる学びを体感してみましょう。

当プログラムでは、海岸清掃や体験活動を通して海洋保全の重要性を学ぶとともに、地球規模の問題を自分事に落とし込み、豊かな海を守る手段を共に考えます。



体験一例

伝えたいこと

- ◆ どうして海洋ごみが問題なのか
- ◆ 私たちの生活と海との関係
- ◆ 陸の豊かさと海の豊かさの繋がり
- ◆ 日頃の生活の中で私たちに何ができるのか

教育効果

- ◆ 課題を提起・調査・考察し、解決策を導き出す力を養う。
- ◆ 様々な視点や立場で考え、物事を多面的に捉える力を身につける。
- ◆ グループワークを通して主体性と協調性を磨く。
- ◆ 本当の海の豊かさとは何かを考え、環境保全の大切さを学ぶ。
- ◆ 作る側・使う側の責任を知り、日常生活の中で自分自身に出来ることを考える。
- ◆ 海岸清掃をきっかけに、地域や社会に貢献する意識を醸成する。

プログラムの流れ

①事前学習 (学校)	周防大島町の特徴・SDGsの目標について学ぶ(資料提供)
②現地説明	体験内容の説明
③調査・体験	海岸清掃による実態調査 自然を活かした体験活動 <small>※体験活動は滞在時間に余裕がある場合のみ実施</small>
④まとめの会	グループワーク・発表
⑤事後学習・ 発表(学校)	学習成果の発表

- ◆ 人数 10～40名
- ◆ 所要時間 2～3時間程度
- ◆ 実施期間 通年
(少雨決行)
- ◆ 持参物
汚れてもいい服・靴・
帽子・軍手・タオル

宿泊施設【生徒用宿舎・本部宿舎】

瀬戸内アロハリゾート

グリーンステイながうら

周防大島町の姉妹島であるハワイ州カウアイ島の景観を取り入れた宿泊施設。ヤシの木が立ち並ぶ芝生広場には心地良い風が吹き抜け、和室と洋室を備えたセンターハウスの他、ログハウスやトレーラーハウスなどの宿泊棟がございます。

入浴施設「潮風呂保養館」では、周防大島伝統の潮風呂をお楽しみいただけます。



- 定員
105人

- アクセス
大島大橋から6km
(車で10分)

- ご予約

〈予約開始期間前〉当協議会にて仮押さえを承ります
〈予約開始期間後〉御社から宿泊施設へ正式予約をお願いします



潮風呂保養館



ログハウス



トレーラーハウス



センターハウス
和室



センターハウス
洋室

周防大島町大字椋野1144-1 Tel. 0820-79-0021

宿泊施設【本部宿舎】

料理旅館かわい寿し

お寿司や海鮮丼など、島の近海でとれた新鮮な魚介をふんだんに使った活魚料理が魅力。目の前の道の駅でお土産購入も可能。



周防大島町大字西方
1958-22
Tel. 0820-78-0011

- 定員
14人（5部屋）

- アクセス
大島大橋から22km（約25分）
道の駅サザンセットとうわの目の前

- ご予約

本部宿舎としてご利用の際は当協議会までご連絡ください



セトノウツツ

周防大島町大字平野1184
Tel. 0820-78-0220

白砂のビーチを望む海辺のオーベルジュホテル。
地元食材を使った料理とバレル型サウナルームが人気。



- 定員
23人（7部屋）
- アクセス
大島大橋から25km（約30分）
片添ヶ浜海水浴場の目の前
- ご予約
施設へ直接お問い合わせください

ゲストハウス HOSHI-KAZE

自然に囲まれ、夜には満天の星空と心地よい潮風に包まれる宿。

周防大島町東安下庄579-1
Tel. 0820-77-0815

- 定員
28人（4部屋＋ドミトリー）
- アクセス
大島大橋から21km（約25分）
- ご予約
施設へ直接お問い合わせください



安全対策・緊急連絡体制

実施に伴う安全対策

1. 厳守事項と協力要請事項

事故防止のための厳守事項と円滑な運営を行うための協力要請事項を下記のとおり定めお知らせします。

- ・周囲に危険を伴う場所がある場合には立ち入り禁止などの措置を講じ、関係者間で情報共有を行います。
- ・危険回避などの安全対策をインストラクター研修にて徹底します。
- ・無理のない行程の提案やアドバイスをを行います。
- ・事前資料や装備に関する情報を提供します。
- ・専門的表現を避けわかりやすい指導をします。
- ・アレルギーや持病の有無等、プログラムを実施する上で必要となる情報の事前提供をお願いし、必要に応じて問い合わせを行います。
- ・参加者、関係者の体調確認を行います。
- ・けがを防ぐため、必要に応じて準備運動やストレッチ体操などを行います。
- ・参加者の年齢等を考慮し、適正な人数で受入れます。
- ・当地域のありのままの暮らしを体感してもらうため、雨天でも雨具を着用しプログラムを実施することが原則です。
- ・海が時化するなど漁船の操業が難しい場合は代替プログラムになることがあります。
- ・カヌー体験は日本カヌー連盟またはB & G海洋性レクリエーション指導員の認定を受けたインストラクターを主任とする指導体制をとり、陸上で基本レッスンを十分に行った上で実施します。
- ・衛生管理と火災予防に怠りなきよう徹底します。

2. 体験プログラム実施可否の判断

体験プログラムは自然環境に左右されることがあります。当日の状況によっては危険防止等の観点から実施場所の変更や催行中止の判断が必要となる場合があることをご留意ください。その際は、前日または当日の朝に主催者や専門家等で協議を行い、学校の現地責任者ならびに旅程管理者（旅行会社担当者・添乗者）に報告します。代替策についてはあらかじめ協議をしておきます。

3. 保険

安全管理には万全を期して対策と指導をしていますが、万が一の事故が発生した場合に備えて下記の種類の保険に加入しています。

体験プログラム・民泊に係る保険内容

項目	保険金額・対人	保険金額・対物
傷害・死亡後遺障害 1名	5,000万円	
傷害・入院保険日額 1名	5,000円	
傷害・通院保険日額 1名	3,000円	
受託物損害賠償責任保険 1事故		1,000万円
施設賠償責任保険 1名	7,000万円	7,000万円
施設賠償責任保険 1事故	5億円	5億円
生産物賠償責任保険 1名	7,000万円	7,000万円
生産物賠償責任保険 1事故	5億円	5億円
船客傷害賠償責任保険 1名	7,000万円	
船客傷害賠償責任保険 1事故	7,000万円×乗船許可人数	

4. 事故発生時の緊急体制

緊急事故フローチャートを受入関係者に配布し、連絡網の確認とシュミレーションの実施を徹底します。（警察署・消防署・救急病院の住所・連絡先など）

5. 器具・装備について

- ・安全確保のため、体験プログラムに応じた装備（ライフジャケット、ヘルメット等）の装着を義務づけます。
- ・アウトドアスポーツや林業体験のヘルメット、漁業体験やカヌー体験のライフジャケット、その他カヌー用品等の用具は、法令等で定められた安全基準を満たしたものを使用します。

救急連絡体制

【連絡網】

市外局番：0820

